

第4回三田市教育振興基本計画検討委員会における委員意見について(説明)

第1章 計画の策定にあたって

番号	ご意見・事務局変更点	検討結果・修正(案)
①	コロナの記載箇所について、1文が6行と長いため、文章を分けて記載してはどうか。	文章を見直し、修正した。(P.1)

第2章 三田市の教育を取り巻く環境

番号	ご意見・事務局変更点	検討結果・修正(案)
② ★	第2章全体を見直し、年代が古い情報の内容は削除し、年代順に並び替えて記載した。	第2期計画(H29~R3)以前は削除した。(P.3) 例：1 教育に関する制度等の状況(2) 公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手続きの策定については、平成27年1月に策定した内容のため、削除した。
③	1 教育に関する制度等の状況-(1) 学習指導要領の改訂について、下記の内容の順番を入れ替えた。他ページも見直した。 「学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・ <u>人間性</u> 」 「 <u>実際の社会や生活で生きて働く知識・技能</u> 」「 <u>未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等</u> 」の三つの柱	「知識・技能」→「 <u>思考力・判断力・表現力</u> 」→「 <u>人間性</u> 」の順番で記載。(P.3) 「 <u>実際の社会や生活で生きて働く知識・技能</u> 」、「 <u>未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等</u> 」、「 <u>学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性</u> 」の三つの柱

第3章 三田市の教育がめざす姿 1 基本理念とめざす子ども像

番号	ご意見・事務局変更点	検討結果、修正（案）
④ ★	<p>(2) めざす子ども像</p> <p>●自分や人を大切にし、誇りをもって生きる子（1点目）</p> <p>自分だけではなく、人も大切であるという視点を含め、修正した。</p> <p><u>一人一人が自分のよさや可能性を認識し、自分や人を大切にします。他の人から認められ、自分が大切な存在であることに気づくことで、人も大切にし、そして誇りをもって生きています。</u></p>	<p>下記のとおり修正した。（P.14）</p> <p><u>自分自身がかけがえのない存在であることを実感し、自分のよさや可能性を大切にします。自分も人も大切であることを認識し、互いに尊重しあう関係の中で、一人一人が誇りをもって生きています。</u></p>
⑤ ★	<p>●身近なことに興味関心をもち、課題と向き合い、深く学ぼうとする子（2点目） 説明文を見直した。</p> <p>★ <u>課題（疑問やできないこと等）と向き合い、「なぜ・どうして」ということを常に考え、主体的・対話的に深く学ぼうとします。主体的・対話的に学ぶことで、知的好奇心が満たされ、新たな課題に意欲的に取り組みます。</u></p>	<p>下記のとおり修正した。（P.14）</p> <p><u>様々な事柄に興味関心を寄せて「なぜ・どうして」と考えることができ、また、課題（疑問やできないこと等）に対して主体的に向き合い、深く学ぼうとします。</u></p>
⑥	<p>2基本目標 — 基本目標2</p> <p><u>「学校、家庭、地域」の記載について、中点に統一した。</u></p>	<p>下記のとおり変更した。（P.16）</p> <p><u>「学校・家庭・地域」に統一。（計画全体統一）</u></p>
⑦	<p>2基本目標 — 基本目標3</p> <p>～な力（●●●）のカッコ内の説明は、必ずしも「～な力」とイコールではないので、削除した。</p> <p><u>さまざまな情報や出来事を受け止める力（知識・技能）や、他者と一緒に生き、課題を解決していくための力（思考力・判断力・表現力等）、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置づけ社会をどう描くかを考える力（学びに向かう力・人間性等）</u></p>	<p>～な力（●●●）のカッコ内を削除した。（P.17）</p> <p><u>さまざまな情報や出来事を受け止める力（知識・技能）や、他者と一緒に生き、課題を解決していくための力（思考力・判断力・表現力等）、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置づけ社会をどう描くかを考える力（学びに向かう力・人間性等）</u></p>

第4章 計画の内容 3 基本施策の展開

番号	ご意見・事務局変更点	検討結果、修正（案）
⑧	<p>1.「確かな学力」の育成（1）子どもの可能性を拓く資質・能力の育成の「ひとり学びへの手引き」の活用について</p> <p>個別最適化、各授業の補習だけでなく、授業の中で実施していくことが大切であり、ICTについて記載するべきではないか。</p>	<p>主な取組「授業改善の促進」、「学力向上に向けた補充学習及び発展学習の充実」、「ひとり学びへの手引きの活用」において、取組内容を見直した。（P.24、25）</p>
⑨	<p>1.「確かな学力」の育成（2）育ちと学びをつなぐ教育の「中1ギャップ」、「小1プロブレム」について、地域が学校に入り、地域も連携していくことが大切だと考える。寺子屋など地域の活動があり、地域との連携についても記載してもらえると嬉しい。</p>	<p>・「小中一貫した教育活動の推進」において、「<u>学校・家庭・地域がめざす子ども像を共有し…</u>」という文言を入れた。（P.26）</p>
⑩	<p>1.「確かな学力」の育成（2）育ちと学びをつなぐ教育の「保幼・小・中の11年間」を見通し…は12年間ではないか。</p>	<p>「保幼・小・中の期間」を見通し…と記載内容を改めた。（P.26）</p> <p>（記載内容は、既に3歳児保育が実施されていることを考え、12年間という意味である）</p>
⑪	<p>1.「確かな学力」の育成（2）育ちと学びをつなぐ教育の「<u>学校園所連携の推進</u>」において、これまでも連携し、つながりはできていると感じる。連携することは当たり前のこととし、それを土台にしてどのように円滑に対応していくかをもっと前面に出して記載するとよいのではないか。</p>	<p>「<u>学校園所連携の推進</u>」に変更し、取組内容を修正した。（P.26）</p> <p>○主な取組 「学校園所連携の推進」</p> <p>○取組内容 各中学校区で保育・授業参観、連絡会等の開催、出前授業や合同授業等を通して、情報交換や子どもの育ちと学びを教職員どうしが理解共有するなど、子どもの連続した育ちと学びを支援できるよう、学校園所間の連携を図る。</p>
⑫	<p>2.豊かな心の育成—リード文3段落目</p> <p>外国にルーツのある子どもや性的マイノリティ、障害のある子どもなど…と記載がある。P.29に「三田市障害者共生条例」のことを記載しているが、学校でも共生教育をしている。そのことについて記載をしてもらいたい。</p>	<p>学校での共生教育については、4.一人一人が大切にされる教育の充実（1）特別支援教育に記載している（P.38）ため、ここでの記載は控えることとした。（P.27）</p>
⑬	<p>2.豊かな心の育成—(3)豊かな人間性と社会性を育む教育</p>	<p>「環境教育の充実」、「部活動の推進」→基本施策5（1）キャリア形成と自己実現を図る教育（P.44）に位置付けた。（P.30）</p>

★	<p>主な取組は、「環境教育の充実」と「部活動の推進」であり、(3)のタイトルはケタが揃っておらず、バランスが悪いため変更した。</p>	
⑭	<p>3.「健やかな体」の育成(1) 体力・運動能力の向上「市立幼稚園におけるわくわく体操の推進」について、市立幼稚園、私立幼稚園で定着してきている。わくわく体操を基盤とした体づくりとして、表現を変更してはどうか。</p>	<p>下記のとおり、修正した。(P33)</p> <p>○主な取組 「市立幼稚園における「しなやかな体と心づくり」の推進」</p> <p>○取組内容 芝生園庭や「わくわく体操」を基盤に、友だちと一緒に取り組む中で、多様な体の動きを習得するとともに、自分なりの目標をもって取り組もうとする意欲を高めたり、達成感を味わったりするなど、「しなやかな体と心」を育む。</p>
⑮	<p>3.「健やかな体」の育成の5年間の目標「朝食を毎日食べていると答える子どもの割合」について、食べていない児童生徒(約3%)は、どのような理由で食べていないのか。保護者が朝食を出していないのか?原因がわかれば、それを踏まえた見直しを検討してはどうか。</p> <p>他市でも同じような背景があると思うので、それを踏まえて調査するのが良いと考える。</p>	<p>下記のとおり検討した。(P76)</p> <p>平成29年度実施の三田市食生活アンケートや文科省の食生活調査等から、朝食を食べないとする主な回答は、「食欲がないから」や「食べる時間がない」であることから、食に関する正しい知識と望ましい食習慣の形成につながるよう、計画策定後も、引き続き改善を図りながら取り組む。</p>
⑯	<p>3.「健やかな体」の育成(2) 食育・健康教育—朝食欠食について、5年間の目標を掲げるのであれば、施策の方向や取組内容に文言を入れてはどうか。</p>	<p>施策の方向を下記のとおり、修正した。(P34)</p> <p>心身の健やかな成長は、規則正しい食習慣と生活習慣が密接に関連しており、朝食を規則正しくとることや、早寝早起きなどの生活リズムを整えることは大変有効です。また、食が多くの人に支えられていることや食べ残しなどの問題を通して、食から環境を考えることは、食に関心をもち、食に対する感謝や食文化等を含めた食の大切さを知る機会となります。健全な食生活を実践することができるよう、<u>家庭や地域、関係機関と連携を図りながら</u>、食育や学校給食(地産地消)を通じた心身の健康保持増進を推進します。</p>
⑰	<p>3.「健やかな体」の育成(2) 食育・健康教育において、<u>学校給食の異物混入</u>について追記した。</p>	<p>3.「健やかな体」の育成(2) 食育・健康教育において、学校給食の異物混入について下記のとおり追記した。(P.35)</p> <p>○主な取組 「学校給食の異物混入未然防止」</p>

		○取組内容 給食センターをはじめ、食材の納入や米飯・パンの調理提供等に携わる事業者と異物混入などの事案や改善策などの情報を共有し、食中毒や異物混入等の事故の未然防止を図る。
⑱	3.「健やかな体」の育成（2）食育・健康教育―「健康教育の充実」の取組内容を2つに分けて記載した。	主な取組を、「 <u>健康教育の充実</u> 」と「 <u>感染症予防のための能力・態度の育成</u> 」に分けて記載した。（P.35）
⑲	3.「健やかな体」の育成（3）安全・防災教育―「 <u>安全教育の充実</u> 」と「 <u>生命（いのち）の安全教育の推進</u> 」と <u>安全教育</u> というキーワードが重複しているため、修正した。	主な取組を「 <u>生命（いのち）の安全教育の推進</u> 」を「 <u>生命（いのち）を大切に<u>する教育の推進</u></u> 」とした。（P37） 取組内容は、…「 <u>生命を大切に<u>する</u></u> 」安全教育を推進する。（抜粋）とする。 「 <u>安全教育の充実</u> 」：子どもが自ら身を守り安全を確保する能力の育成 「 <u>生命（いのち）の安全教育の推進</u> 」：文科省が令和7年度から全国展開する事業名
⑳	4.一人一人が大切にされる教育の充実（1）特別支援教育―施策の方向について、発達障害という用語がいきなり出てくるので修正した。	文章を見直し、修正した。（P39）
㉑	4.一人一人が大切にされる教育の充実（1）特別支援教育―施策の方向 三田市では、医療的ケアが必要は施策について、これまでも指導支援してきている。そのことについて、主な取組には書きにくい、何等かの記載をしてもらいたい。	下記のとおり、追記した。（P39） （前略） <u>医療的ケアを含む多岐にわたる教育的ニーズ</u> に <u>応えること</u> ができるよう <u>連続性のある「多様な学びの場」</u> の整備と充実を図ります。
㉒	4.一人一人が大切にされる教育の充実（1）特別支援教育―「特別支援教育研修の充実」の取組内容について、通常学級を含めたすべての教員という表現に変えてもらいたい。すべての教職員が専門性をもたないといけないことが大切である。 教職員や特別支援教育支援員等の専門性と指導力の向上を図るため、特別支援教育研修講座の受講対象を広げるとともに、職種に応じた、より実践的な内容の研修を実施する。	下記のとおり、修正した。（P40） <u>すべての教職員の特別支援教育に係る理解を深めるとともに、特別支援学校教員・特別支援学級担任や特別支援教育支援員等の専門性と指導力の向上を図るため、ニーズに応じた特別支援教育研修講座の受講対象を広げ、職種に応じた、より実践的な内容の研修を実施する。</u>

⑳	<p>4.一人一人が大切にされる教育の充実（1）特別支援教育―「共に生きる教育の推進」について、「共に生きる教育の推進」を「インクルーシブ教育」としてはどうか。</p>	<p>・三田市では「共に生きる教育」を大切なキーワードとしてこれまで使用してきた経緯がある。市の条例等にも「三田市障害を理由とする差別をなくしすべての人が共に生きるまち条例」や「共生社会推進プログラム」など、共に生きるという言葉大切に使用している。また、市民にも分かりやすい表現とすることから、「共に生きる教育の推進」とした。（P.40）</p>
㉑	<p>4.一人一人が大切にされる教育の充実（2）生徒指導・相談体制の充実―「不登校対策の充実」について、取組内容を見直した。</p> <p>○主な取組 「不登校対策の充実」</p> <p>○取組内容 <u>あすなろ教室において、不登校児童生徒の自立に向けた支援を行う。</u></p>	<p>下記のとおり、修正した。（P.42）</p> <p>○主な取組 「不登校対策の充実」</p> <p>○取組内容 <u>不登校児童生徒の社会的自立を支援するため、三田市あすなろ教室をはじめ、民間施設（フリースクール）への通所や家庭でのICTを活用した学習を指導要録上出席として取り扱う等、対策を充実する。</u></p>
㉒	<p>4.一人一人が大切にされる教育の充実（2）生徒指導・相談体制の充実―「スクールソーシャルワーカーと連携した支援の推進」について、取組内容を見直した。</p> <p>○主な取組 「スクールソーシャルワーカーと連携した支援の推進」</p> <p>○取組内容 <u>福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーとの連携により、福祉的な観点から、諸課題を抱える子どもが置かれた環境への適切な働きかけを行うことで学習機会が確保できるように取り組む。</u></p>	<p>下記のとおり、修正した。（P.42）</p> <p>○主な取組 「スクールソーシャルワーカーと連携した支援の推進」</p> <p>○取組内容 <u>児童生徒の生活環境の課題に対し、福祉的な視点からの支援を充実させるため、スクールソーシャルワーカーとの連携を推進する。</u></p>
㉓ ★	<p>5.社会的自立に向けた教育の推進（1）キャリア教育 について、タイトルを変更した。</p>	<p>5.社会的自立に向けた教育の推進（1）キャリア形成と自己実現を<u>図る教育</u> に変更した。（P.44）</p>
㉔	<p>5.社会的自立に向けた教育の推進（1）キャリア形成と自己実現を<u>図る教育</u>の主な取組「環境教育の充実」について、内容を見直した。</p> <p>○主な取組 「環境教育の充実」</p> <p>○取組内容 子どもの発達段階や地域の実態を踏まえ、身の回りの自然やこれらを取り巻く環境問題に体験的に関わる活動や問題解決的な学習を通して、SDGsの開発目標を念頭に、環境・健</p>	<p>下記のとおり、見直した。（P.46）</p> <p>○主な取組 「環境教育を通じた問題解決能力の育成」</p> <p>○取組内容 有馬富士自然学習センターや人と自然の博物館、地域の活動団体と連携し、身の周りの自然やこれらを取り巻く環境問題に体験的に関わる活動や問題解決的な学習を通して、自然環境を大切にしようとする心情を育むとともに、自然と調和のとれた社会の創造に向けて、他者と協</p>

	康・経済のバランスの取れた社会の創り手となる意欲や態度を育む。	働し、多様な視点をもとにより良い問題解決を図る力を育成する。
⑳	<p>5.社会的自立に向けた教育の推進（1）キャリア形成と自己実現を図る教育の主な取組「部活動推進」について、内容を見直した。</p> <p>○主な取組 「部活動の推進」</p> <p>○取組内容 スポーツや文化芸術等の体験活動を通じて、生徒の学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養を図り、好ましい人間関係を育む。また、地域・学校の実態に応じて地域と連携した部活動や、複数校での活動など、部活動を支援する。</p>	<p>下記のとおり、見直した。（P.47）</p> <p>○主な取組 「部活動による個性の伸長」</p> <p>○取組内容 スポーツや文化芸術等の体験活動を通じて、自分自身の可能性について自己理解・自己管理能力を深め、他者とのかかわりの中で、責任感、連帯感の涵養を図り、好ましい人間関係を育む。また、部活動指導員など地域の教育力を効果的に活用するとともに、学校の実状に応じ、複数の学校による合同チームの実施等、持続可能な部活動運営のための体制整備に努める。</p>
㉑	<p>5.社会的自立に向けた教育の推進（2）グローバル化に対応した教育—「外国語・英語教育の推進」の取組内容について、記載内容を見直した。</p> <p>○主な取組 「外国語・英語教育等の推進」</p> <p>○取組内容 就学前から11年間を見通した外国語・英語教育を推進する。言語活動を通して、「聞く」「読む」「話す〔やり取り〕」「話す〔発表〕」「書く」の4技能5領域を総合的に育成する。児童生徒の学びの円滑な接続に向けて、小中高連携を推進する。</p>	<p>下記のとおり、見直した。（P.48）</p> <p>○主な取組 「外国語（英語教育等）の推進」</p> <p>○取組内容 就学前から中学校までの期間を見通し発達段階に応じて、外国語・英語教育を推進する。小中学校においては言語活動を通して、「聞く」「読む」「話す〔やり取り〕」「話す〔発表〕」「書く」の4技能5領域を総合的に育成する。外国語（英語教育等）の一層の充実に向けて小中連携を推進する。</p>
㉒	<p>5.社会的自立に向けた教育の推進（2）グローバル化に対応した教育に、「GIGAスクール構想の推進」が位置付けられていることに、違和感がある。（P.48）</p>	<p>「GIGAスクール構想の推進」は、1.「確かな学力」の育成（1）子どもの可能性を拓く資質・能力の育成 に位置付け、主な取組名も「ICT機器を活用した教育の推進」に変更した。（P.24）</p> <p>【整理・考え方】基本施策1：ソフト面、基本施策10：ハード面</p>
㉓	<p>6.幼児期の教育の充実について、下記の3点について検討した。</p> <p>★ 1点目：リード文、2行目「読み書きなど認知能力の土台となる「学びに向かう力」（社会情動的スキル）を育むことの重要性…」において、読み書きなどとあえて、書く必要があるのか。</p>	<p>6.幼児期の教育の充実について、3点含め、全体を見直した。（P.49）</p>

	<p>2点目：施策の方向性において、幼稚園の教育で運動遊びだけを取り出すのではなく、遊びの中に運動を含めるという考え方の方がよいのではないか。</p> <p>3点目：主な取組「幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続」において、アプローチカリキュラムの作成と記載があるが、すでにアプローチカリキュラムはある。策定しているものを深める内容にしてはどうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 施策の方向性を1つにまとめた。 • 基本施策6「幼児期の教育の充実」に幼稚園再編についても記載をした。（基本施策 10「学びを支える環境の整備」から移動） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>6.幼児期の教育の充実</p> <p>(1) 生きる力の基礎を育む教育</p> <p>(2) 多様な保育ニーズへの対応</p> <p>※幼稚園再編のことを基本施策6に記載</p> </div>
<p>③2</p>	<p>6.幼児期の教育の充実のリード文について、知的好奇心、身近なことに興味関心をもつことの大切さについて、追記してはどうか。</p>	<p>幼稚園教育要領を参考に、表現を改めた。（P.49）</p> <p>主要なものとしては、幼稚園教育の本旨である「生きる力の基礎」を培うこと、そのために育む3要素を明記することとした。また、幼児期の特性を踏まえて「ひと・もの・こと」を含む環境づくりの重要性について記述することで、この取り組みのリード文とする。</p>
<p>③3</p>	<p>7.信頼される学校づくりの推進の指標、「各種研修参加者の満足度の平均」について、令和2年度は「実施なし」となっているが、目標値90%の設定が良いのかどうかの判断基準として、前年度までの数値を教えてください。また、満足度を指標とするのではなく、目標設定に対する達成度を具体的に反映できるような指標に検討してもらいたい。</p> <p><u>各種研修参加者の満足度の平均「大変良かった」「概ね良かった」と肯定的に回答した割合</u></p>	<p>指標を下記のとおり、見直した。（P.78）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「研修内容を今後の指導に役立てたい」と回答した教職員の割合の目標値設定については、令和3年8月に実施するアンケート結果を参考とする。（これまでアンケート実施なしのため、お示しできる目標値はなし） <p><u>「研修内容を今後の指導に役立てたい」と回答した教職員の割合</u></p>
<p>③4</p>	<p>7.信頼される学校づくりの推進（2）教職員の資質・指導力の向上一現状と課題に記載している、「評価基準」は「評価規準」に変更した。</p>	<p>「基準」：量的な目安、物事の基礎にする標準。（P.55）</p> <p>「規準」：質的な目安、規範・標準となるもの。従うべき規則。</p>
<p>③5</p>	<p>7.信頼される学校づくりの推進の指標について、「学校ホームページ」の年間アクセス数が削除されている。（第2期計画掲載有、第3期無）第3期計画にも記載することを検討した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「学校ホームページ」の年間アクセス数について再度検討し、下記のとおり掲載する。（P.78） <p>「学校ホームページの年間アクセス数が家庭数の3倍以上（月平均）の学校数」現状：22校（令和2年度）、目標：全29校、目標値の説明：開かれた学校づくりを推進するためには学校ホームページの活</p>

		用などによる情報発信が必要である。保護者が月3回以上学校ホームページを閲覧することを目標として設定。
③⑥	8.地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりの指標について、学校支援ボランティアの活用について、指標を設けることはできないか。	学校支援ボランティアの活用について、児童生徒、保護者の認知度、活動状況、コーディネート等、指標について検討した結果、数値化することが難しく、現在記載している「学校支援ボランティアの延べ活動日数」を指標とする。(P.78)
③⑦	8.地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりー(1)学校・家庭・地域の連携と協働における、現状と課題の1点目、幼小中の垂直方向のアプローチ…について、紐づく取組みにも幼稚園がない中、なぜ幼稚園が入っているのか。特別な意図がなければ、「幼」を削除する。 【現状と課題】 ●幼小中の垂直方向のアプローチだけでなく、家庭を中心におき、学校と家庭、地域と家庭といった水平方向のアプローチによる教育も求められています。	下記の通り検討し、表記を改める。(P.60) 「幼小中の垂直方向のアプローチだけでなく」は、このあとの「水平方向のアプローチ」との対比の中で用いられているにすぎず、「地域ぐるみ」において「垂直方向のアプローチ」に言及する必要性は乏しく、この部分を削除することは問題ないと考える。 【現状と課題】 ●家庭を中心におき、学校、地域を含めた多様な主体が連携した教育が求められています。
③⑧	8.地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりにおいて、記載内容に、幼稚園がないため、関連する取組みや記述を追加したほうがよいのではないか。(P.60)	幼稚園は、義務教育ではないことに加え、園区があるとしても小中学校の校区とは位置づけが異なることから、小中学校の「コミュニティ・スクール」や「学校支援ボランティア」のような仕組みはない。 ただ、一般論として、幼稚園が地域と連携すべきであることは言を俟たないところである。 実際にも、農村地域における幼稚園は、地域との結びつきが比較的強いといえる。 このことを踏まえて、市立幼稚園の再編により新設される認定こども園にあっては、その教育方針等を「地域」と共有し、相談しながら、その力もお借りしながら、子どもたちの豊かな学びを支えたいと考えている。 ただ、このような取り組みも、園独自の取り組みとしてはともかく、近隣に民間の保育所が存在する、市街地の公立幼稚園や民間の認定こども園にまで普遍化し、全ての子どもの育ちを保障するための均質な取り組みとして教育振興基本計画に規定することは難しいのではないかと考える。

③9	8.地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりー(1)学校・家庭・地域の連携と協働における、現状と課題の3点目と施策の方向のコミュニティ・スクールの記載内容について、分けて記載すると、別物のように見えるので、表現を検討してもらいたい。	コミュニティ・スクールの「現状と課題」、「施策の方向」について、「●」を分けず、一体的、総合的に進めていくように、記載内容を修正した。(P.60、61)
④0 ★	9.「学び」が活かせる関係づくりのタイトルと、(1)地域人材を活かす仕組みづくりのタイトルを変更した。 タイトルを見直すと同時に、主体が子どもか大人のどちらか、または主語は誰なのかを意識し、全体を見直した。	9.子どもと大人の「学び」が循環する関係づくりー(1)学習成果を活かす仕組みづくりに変更した。(P.64)
④1	9.子どもと大人の「学び」が循環する関係づくりー(2)多様な学習機会の創出の主な取組「地域の伝統文化の継承の推進」において、具体的には、どのような取組なのか。地域の神楽について、広報すると効果的ではないか。 子どもたちに地域の伝統芸能などへの理解を進め、「知り・守り・育てる」機会を創出する。伝統文化の継承を進めることでふるさと意識の醸成を図る。	下記のとおり修正した。(P.65) 子どもたちに地域の伝統芸能などへの理解を進め、「知り・守り・育てる」機会を創出する。伝統文化の継承を進め、周知することでふるさと意識の醸成を図る。
④2	9.子どもと大人の「学び」が循環する関係づくりの指標「学校訪問コンサートを利用した小学校」の目標値の説明において、「文化芸術に触れ自尊感情を高めることをめざす」とあるが、芸術文化に触れることで、自尊感情が高まるのか。 子どもたちがコンサート鑑賞等を通じて本物の文化芸術に触れ自尊感情を高めることをめざす。総合文化センターが、小学校への出向いて行うコンサート等の鑑賞事業の件数を設定	下記のとおり修正した。(P.79) 子どもたちがコンサート鑑賞等を通じて本物の文化芸術に触れる機会を提供する。総合文化センターが、小学校への出向いて行うコンサート等の鑑賞事業の件数を設定。
④3 ★	10.学びを支える環境の整備について、学校の再編・統合に特化した記載にした方がよいのではないかと。また、現状と課題について、記載内容が曖昧なため、再編・統合の課題について、もう少し記載した方がよいのではないかと。 修正前) 10.学びを支える環境の整備 <u>(1) 学校・幼稚園の再編・統合</u> <u>(2) 安全安心な環境の整備</u>	10.学びを支える環境の整備について、全体を見直し、タイトル含め見直した。(P.67) 修正後) 10.学びを支える環境の整備 <u>(1) 安全安心で充実した環境の整備</u> <u>(2) 学校の再編</u>

④④	10.学びを支える環境の整備の(2)安全安心な環境の整備について、安全安心で充実した環境の整備にはどうか。	(2)安全安心で充実した環境の整備 に変更した。(P.67)
----	---	--------------------------------

全体について・その他

番号	ご意見・事務局変更点	検討結果、修正(案)
④⑤	<p>文言整理について(別紙:語句統一について)</p> <p>「子ども」と「児童生徒」の使い分けについて、整理した。</p>	<p>下記のとおり整理した。</p> <p>「子ども」:子どもの中には、児童生徒が含まれており、より大きなくくりで指す場合に使用。</p> <p>「児童生徒」:学校現場での子どもを指す場合に使用。</p>
④⑥	<p>計画全体を横断的に見る。(「 」や中点の統一)</p>	<p>最終、語句統一、グラフの調整、フォント、行間等含め、確認する。</p>
④⑦	<p>「探究」が一つの大切なキーワードであり、計画に入れることを検討した。</p> <p>教科担任制の導入は、教科横断的な視点に立った資質能力の育成と探究的な学習の充実である。情報活用能力は手段であり、教科横断をして使えるような探究が必要。</p>	<p>基本目標1(P.16)と基本施策1(P.21)のリード文に追記した。</p>